

公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

代表者氏名	坂上貴之	所属	慶應義塾大学文学部
研究集会等名称	第22回行動数理研究会		
成果概要	<p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <p>会員 30名 (うち認定心理士 1名) 非会員 9名 (うち認定心理士 0名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 (実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください)</p> <p>集会の目的: 行動の数理的・定量的分析に関心を持つ研究者間の情報交換と研究の促進を目的として、年1回研究集会を開催し、研究集会の講演記録集を刊行している。集会では、研究会の前半に研究方法のテクニックや他の研究分野に関する知識を解説する「教育セッション」を、後半に一般の研究発表という構成で研究会を実施している。今年は、午前に1件の教育セッション、午後に3件の研究発表が行われた。</p> <p>実施内容: 日時 9月9日(火) 11時より16時10分 場所 同志社大学今出川キャンパス(京都市) 寒梅館6階会議室 プログラム 午前の部: 教育セッション 11:10-12:00 話題提供 澤 幸祐(専修大学) 時空間学習、因果推論事態にみる『古典的条件づけって結局なんだろう』問題 12:00-13:30 休憩(昼食)とビジネスミーティング 午後の部: 講演 13:30-14:20 話題提供 腰冢由子(駒澤大学) ヒトにおけるタイムアウト回避行動について 14:20-15:10 話題提供 沼田恵太郎(関西学院大学) 随伴性学習に関する最近の研究動向: 命題推論をめぐって 15:10-16:00 話題提供 黒田敏数(愛知文教大学) ハトのオートクリティック類似反応 ～信号検出と確率割引の数理モデルとの関連性～</p> <p>成果・将来計画: 今年度は、これまでのオペラント条件づけに基づく研究発表だけでなく、古典的条件づけを専門とする研究者によるチュートリアルや話題提供もあり、幅広い集会内容となった。参加人数も39名と近年(2012年は23名、2013年は21名)と比較しても多く、研究集会が多様な展開を見せていることを示している。今後とも、行動の定量的研究に関心を持つ様々な研究者が参加でき、自由な議論が展開できる研究集会としていきたい。</p>		

2015年 3月31日

日本心理学会研究会

2014年度会計報告書

研究会名称 行動数理研究会

研究会番号 14001

助成金額 50,000円

年月日	項目	金額
2014年9月9日	講師謝礼費（教育セッション1名）	¥20,000
2015年3月30日	印刷費（講演記録集）	¥30,000
支出合計		¥50,000